



2026 年 7 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社 WOLVES HAND  
代表者名 代表取締役 CEO 兼 COO 北井 正志  
(コード：194A、東証グロース市場)  
問合せ先 執行役員 CFO 田中 哲生  
(TEL. 06-6599-9106)

**(開示事項の経過) 動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究（再生医療分野）  
共同研究コンソーシアムの立ち上げに関するお知らせ**

～犬胎盤由来幹細胞培養上清液投与後に認められた遺伝子発現変化について～

当社は、2026 年 4 月 9 日付「動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究（再生医療分野）共同研究コンソーシアムの立ち上げに関するお知らせ」において、動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究（再生医療分野）に関する臨床研究について、グループ外の動物病院及び獣医師との共同研究コンソーシアムを立ち上げることをお知らせしておりましたが、この度、犬胎盤由来幹細胞培養上清液（SC-CM）投与後の血液由来細胞における遺伝子発現変化を解析し、興味深い知見を得ましたのでご報告いたします。

2026 年 4 月 9 日付けで既の開示しておりますが、2025 年 11 月に開催された「第 68 回比較統合医療学会」において、SC-CM を投与した高齢犬に活動量の増加が認められ、アンチエイジング効果が示唆されたことを発表し、栄誉ある学会長賞を受賞し、学術的にも高い関心を集めました。今回、その作用機序の一端を明らかにすることを目的として、5 例の犬を対象とした探索的解析を実施しました。SC-CM 投与前後に採血を行い、血液由来細胞の遺伝子発現を解析したところ、結果として以下の結果が得られました。

**【探索的遺伝子発現解析の結果】**

全 5 例において、投与前と比較して投与後に「TNF 遺伝子の発現量低下」が認められた。

高齢化に伴い、人と同様に動物においても慢性的な炎症状態が生じることがあります。このような慢性炎症は活動量の低下を招く要因の一つと考えられており、その抑制はアンチエイジングにつながる可能性があります。TNF は炎症反応に関与する重要な因子であり、その発現量の低下は炎症の抑制を示唆するものです。今回確認された TNF 遺伝子発現量の低下は、SC-CM によるアンチエイジング効果を反映している可能性があります。

**【今後の研究の方向性】**

今回の上記の探索的遺伝子発現解析の結果を踏まえ、今後は、既にお知らせしております SC-CM に関するコンソーシアムの設立を起点として、研究プロトコルを拡充し、活動量の臨床研究だけでなく、血液由来細胞の遺伝子解析も組み入れることで、アンチエイジングの学術研究を深化させ、より多くの症例を対象とした遺伝子解析を進めてまいります。また、TNF 以外の遺伝子についても包括的な解析を実施することで、SC-CM の作用機序のさらなる解明を目指してまいります。

現在、獣医療領域においては再生医療に関する統一的なガイドラインが十分に整備されていない状況です。当社は今後も臨床研究データの蓄積を進めるとともに、獣医療領域における再生医療ガイドラインの策定に向けた業界をリードする取り組みにも貢献してまいりたいと考えております。

以上